

第4章 鳥取港の課題・要請

鳥取港の概要（第1章）、取り巻く環境の変化（第2章）、上位計画（第3章）を踏まえ、鳥取港の課題と要請を整理しました。

本章で整理した成果を、鳥取港長期構想（第5章）に反映しました。

4-1.鳥取港の課題

鳥取港の課題は、主に「課題1 航路埋塞・泊地閉塞」、「課題2 静穏度不足」、「課題3 船舶の大型化と新たな貨物への対応」の3つが挙げられます。

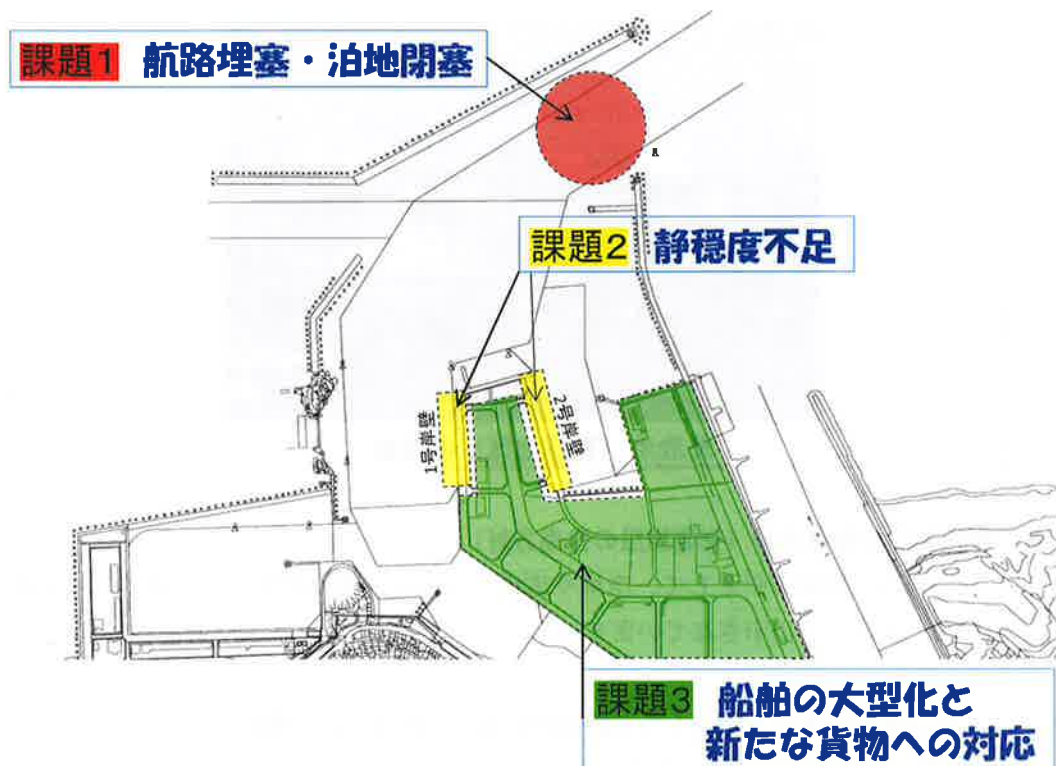


図 4-1 鳥取港の課題

(1) 航路埋塞・泊地閉塞

冬季風浪等により主要航路である千代航路に砂が堆積し大型船の航行に支障が生じることから、毎年春先に千代航路の維持浚渫を実施し、航路水深の維持を図っている状況です。

2017年台風18・21号、2018年7月豪雨、2019年台風19号では、航路内への土砂流入により航路埋塞、泊地埋塞が発生し、鳥取港で陸揚げ予定だったバイオマス燃料を他港で陸揚げする事案が発生しました。

上記の航路埋塞・泊地埋塞等は千代川からの流下土砂が鳥取港内に侵入してくることから発生していることを踏まえ、防波堤形状の見直し等を図る必要があります。

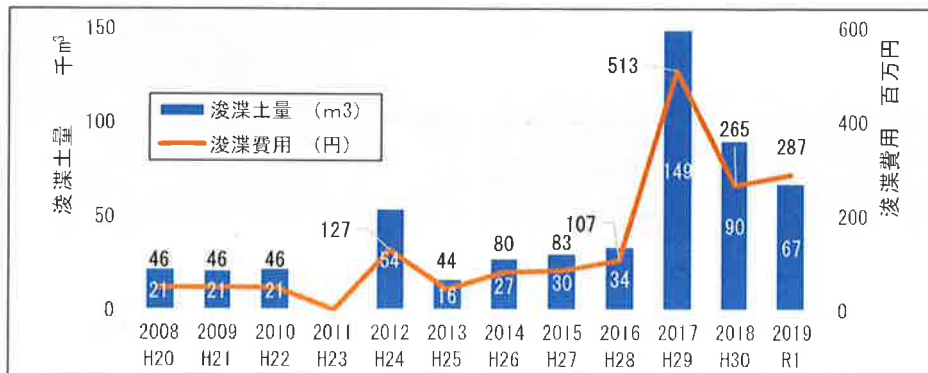


図 4-2 通年の浚渫実績 (浚渫土量・浚渫費用)

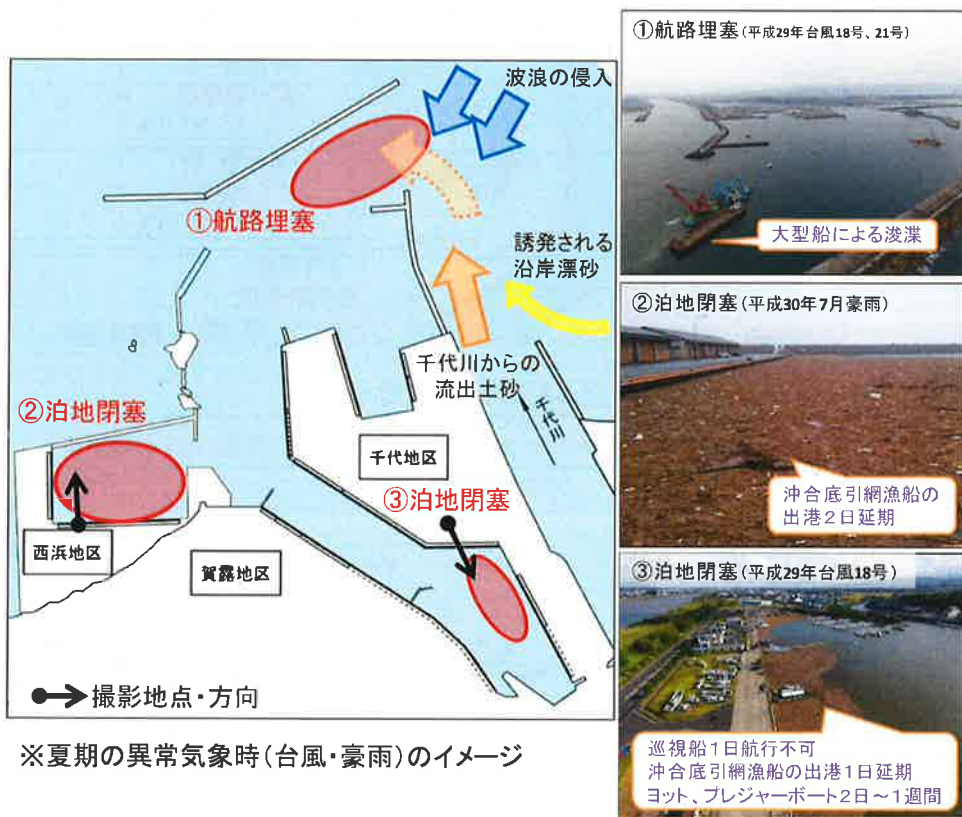


図 4-3 夏期の航路閉塞、泊地埋塞発生状況

(2) 静穏度不足

日本海岸側に位置する鳥取港では、冬季における風浪が厳しい状況であり、既設防波堤では静穏度が不足しており、解消が求められています。(千代ふ頭2号岸壁前面の風浪に対する静穏度：94.5%)

冬場の荒天時等には「外海が時化しているときに、港内も時化て、岸壁で荷役ができない」との利用者の声があり、入港を敬遠する状況が発生しており、港内波浪により、船体、岸壁が破損する事案が発生しています。また、西浜地区においても、港内に侵入する波浪影響による船舶動揺が発生し、漁船が破損するといった事象が生じています。



図 4-4 冬季風浪状況 (左)、岸壁荷役状況 (右)

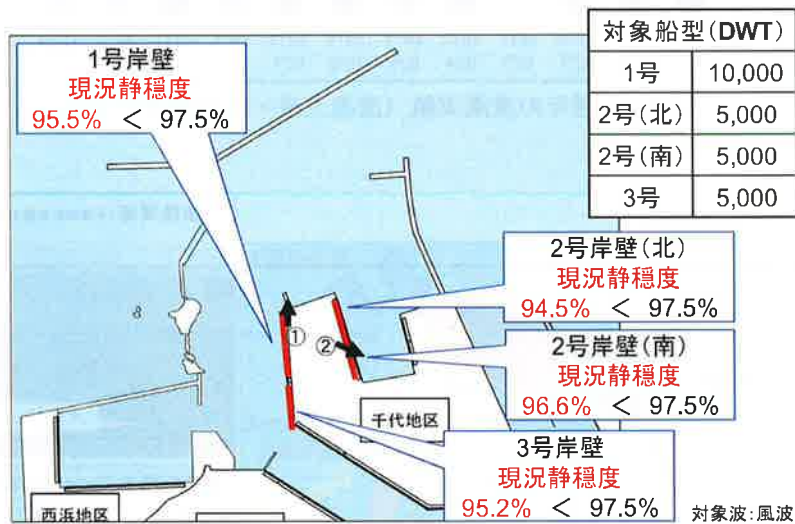


図 4-5 港内静穏度の不足

昭和51年 港湾計画策定時 → 平成9年 港湾計画改訂時 → 直近10年の観測値

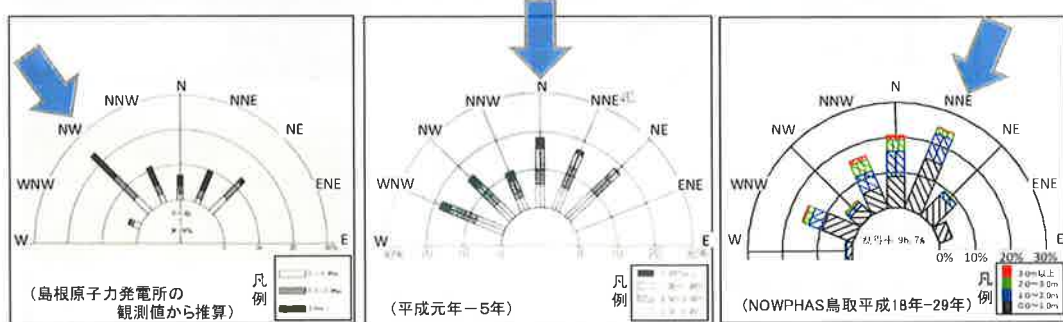


図 4-6 沖波の変化 (波向別波高発生頻度)

(3) 船舶の大型化と新たな貨物への対応

地元製紙会社が船舶の大型化による輸送の効率化を目的として、自社バイオマス発電所向け燃料船の大型化（1万DWT→3万DWT）の意向を示しており、港湾施設の整備が求められています。

現在、バイオマス燃料を1万DWTの貨物船で輸送していますが、船を3万DWTに大型化するには、港内航路・泊地、岸壁前面の水深が不足（現水深10m）します。

バイオマス発電向け燃料の新規取扱いや取扱量の増加が見込まれていますが、鳥取港内の港湾関連用地の大半が分譲済となっており、貨物取扱機能（岸壁、背後用地等）の強化が求められています。

背後企業からは、バイオマス燃料（PKS, EFB, パームオイル）の増加、その他の新規貨物の取扱い要望が出ています。貨物取扱機能（用地、岸壁）の強化による新規需要の取り込みが重要となります。

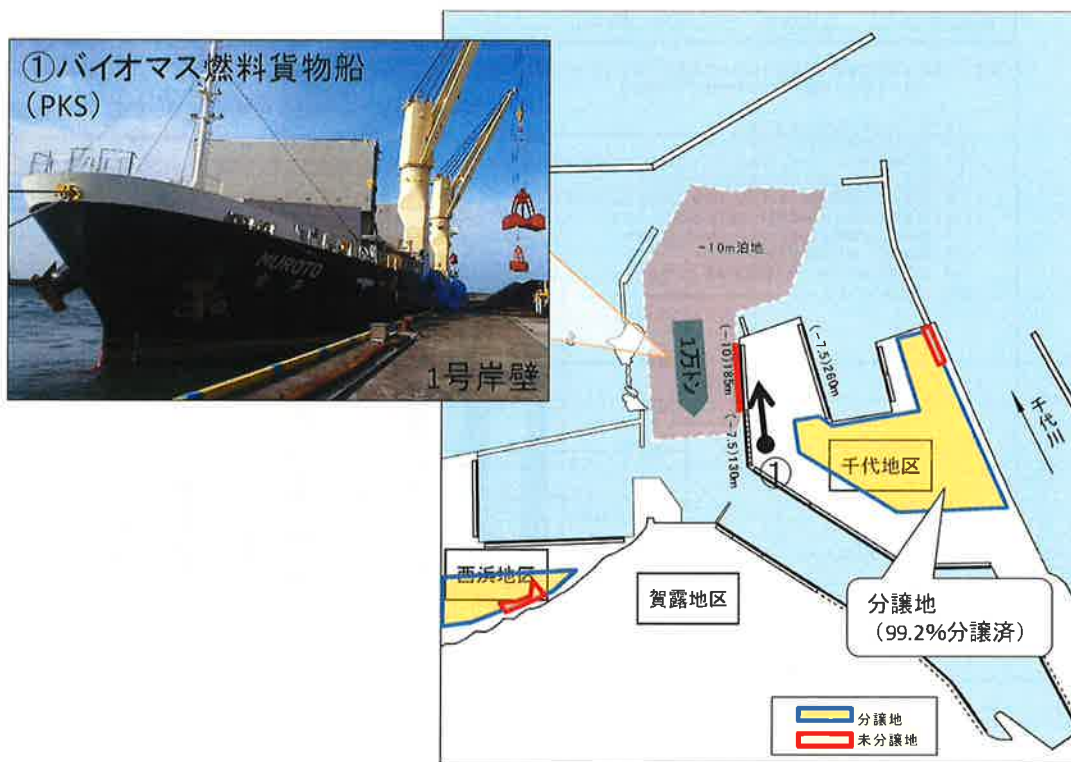


図 4-7 1万DWT 貨物船の利用、野積場の分譲状況

4-2. 鳥取港への要請

(1) 県民からの要請（アンケート調査）

県民ニーズを把握するため、鳥取県では、賀露地区民へのアンケート（平成24年6月）、来訪者を対象にしたアンケート（平成29年10月）、県民を対象にしたWEBアンケート（平成31年1月）、地元小学校へのアンケート（令和元年9月）を実施しております。

① 賀露地区民アンケート

賀露地区民アンケート結果より、まちづくりの要望は、「良好な生活環境が整った住みよいまち」、「地震、津波、台風などの災害に強い防災のまち」、「高齢者や子ども、障がいのある人たちを大切にする福祉のまち」が多数評価を得ています。

目指すべきまちづくりのキーワードは、「安全安心」、「地域福祉」、「環境」、「教育・文化」、「ふれあい・活力のあるまち」が設定されています。

（アンケート対象）

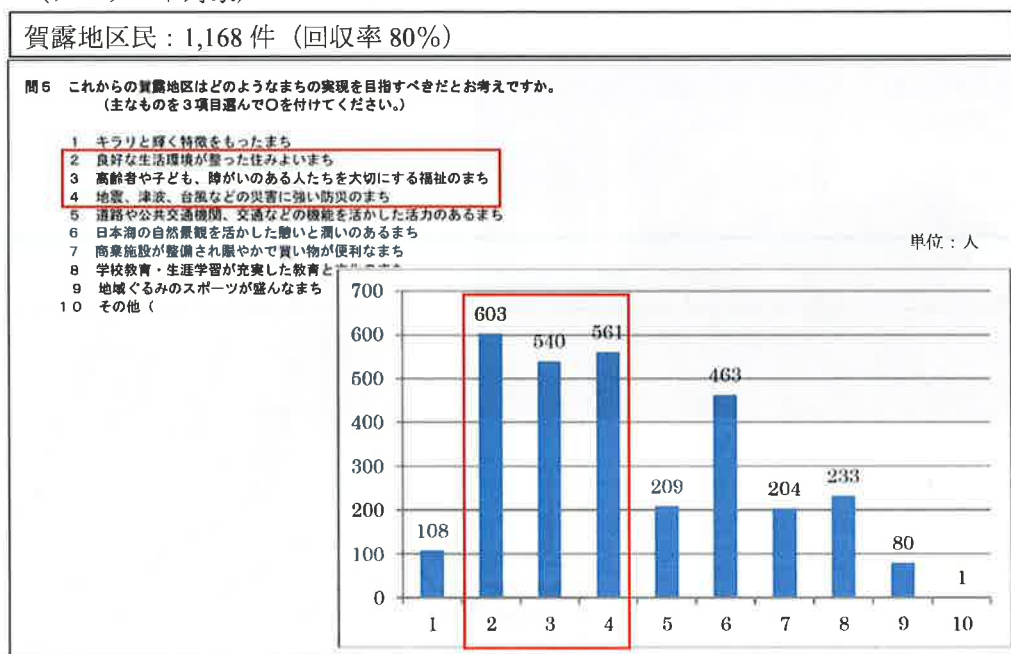


図4-8 目指すべきまちづくり（賀露地区民の意見）

《目指すべきまちづくりのキーワード》

- ◆安全安心（防災・防犯）
- ◆地域福祉（助け合いのコミュニティ）
- ◆環境（自然環境・生活環境）
- ◆教育・文化（生涯学習・伝承保存）
- ◆ふれあい・活力のあるまち（世代間交流）

資料：賀露のまちづくりアンケート調査 平成24年6月

図4-9 目指すべきまちづくりのキーワード

② みなとオアシス来訪者アンケート

来訪者アンケート結果によると、鳥取港のイメージは魚や海に関するものが多くなっています。来訪の目的は、①買い物（水産物）、②買い物（農産物）、③食事に分散しています。

鳥取港への来訪者は約9割が自家用車を利用しています。（砂丘に比べ路線バス等の利用が少ない）。公共交通機関を利用している旅行者は鳥取港に繋がりにくい状況です。

（アンケート対象）計 191 人

鳥取市：112 人、東部（市外）：9 人、県内（市外）：6 人、
 県外：64 人（近畿地方 32 人、中国地方 17 人、関東地方 9 人、その他 6 人）

鳥取港賑わいづくりに関するアンケート結果（平成 29 年 10 月）

※ヒアリング形式で実施

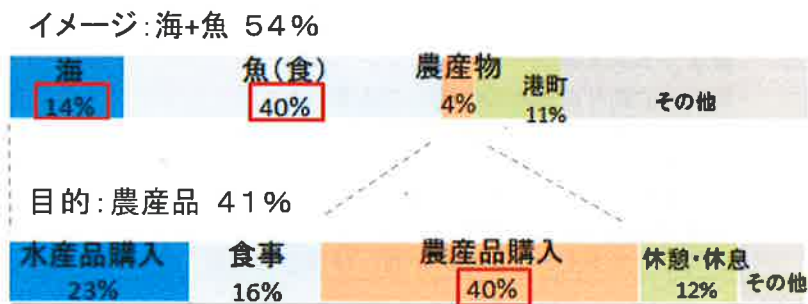


図 4-10 イメージと来訪目的について

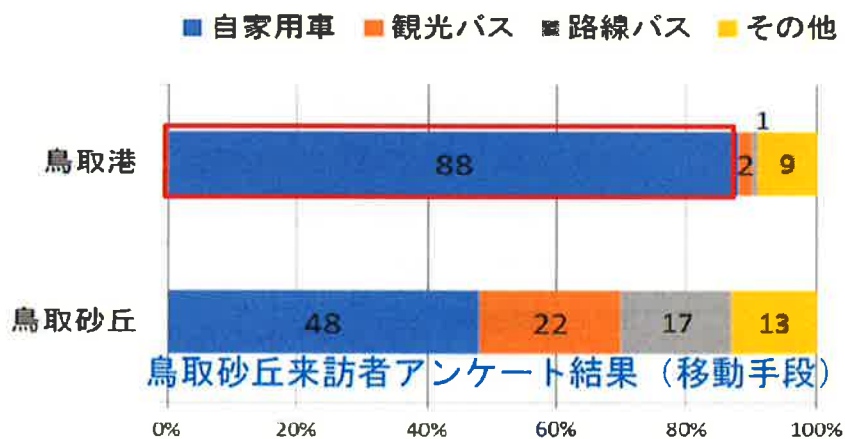


図 4-11 移動手段について

③ 電子アンケート

電子アンケート結果によると、鳥取県民が抱く鳥取港のイメージは、『漁業が盛んな港』、『鮮魚や野菜などの食料品が揃っている港』等の海の幸に関するものが多くなっています。

一方、防災拠点やマリンスポーツ、クルーズ船、物流港湾といった、本来鳥取港が担っている機能のイメージは少なくなっています。

(アンケート対象) 計 809 人

鳥取市：361人、米子市：185人、倉吉市：70人、境港市：34人、八頭町：17人、湯梨浜町：23人、琴浦町：18人、北栄町：15人、大山町：18人、その他：68人

平成30年度第10回県政参画電子アンケート

(鳥取港のイメージ)

(多数評価)	漁業が盛んな港	373人	46.1%
	余り訪れていない(知らない)のでイメージがない	247人	30.5%
	鮮魚や野菜などの食料品が揃っている港	235人	29%
	食事ができる港	225人	27.8%
	海水浴や釣りなど水辺に親しめる港	204人	25.2%
(少数意見)	防災の拠点(災害時の物資輸送など)となる港	26人	3.2%
	ヨット・モーターボートなど、マリンスポーツが盛んな港	34人	4.2%
	豪華客船(クルーズ船)が入港する港	70人	8.7%
	公園や緑地など憩いの空間がある港	75人	9.3%
	県民の生活を支える商品等が海上輸送される港	140人	17.3%

来訪者は、買い物や食事のほかに休憩や散策等での来訪が多くなっています。年に数回から数年に一度しか訪れたことない人がほとんどで、3割から4割が賀露地区、2割から3割程度は西浜地区に訪れています。

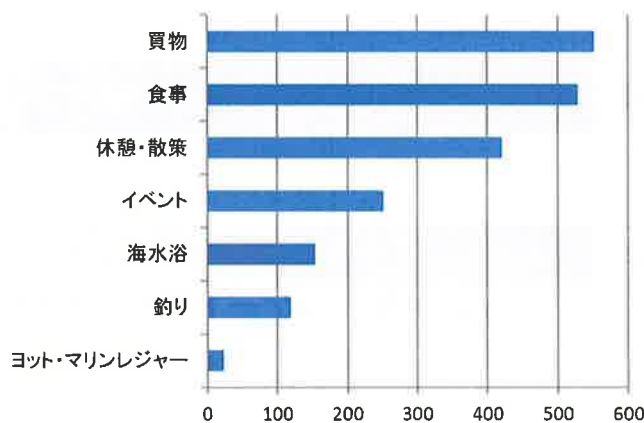
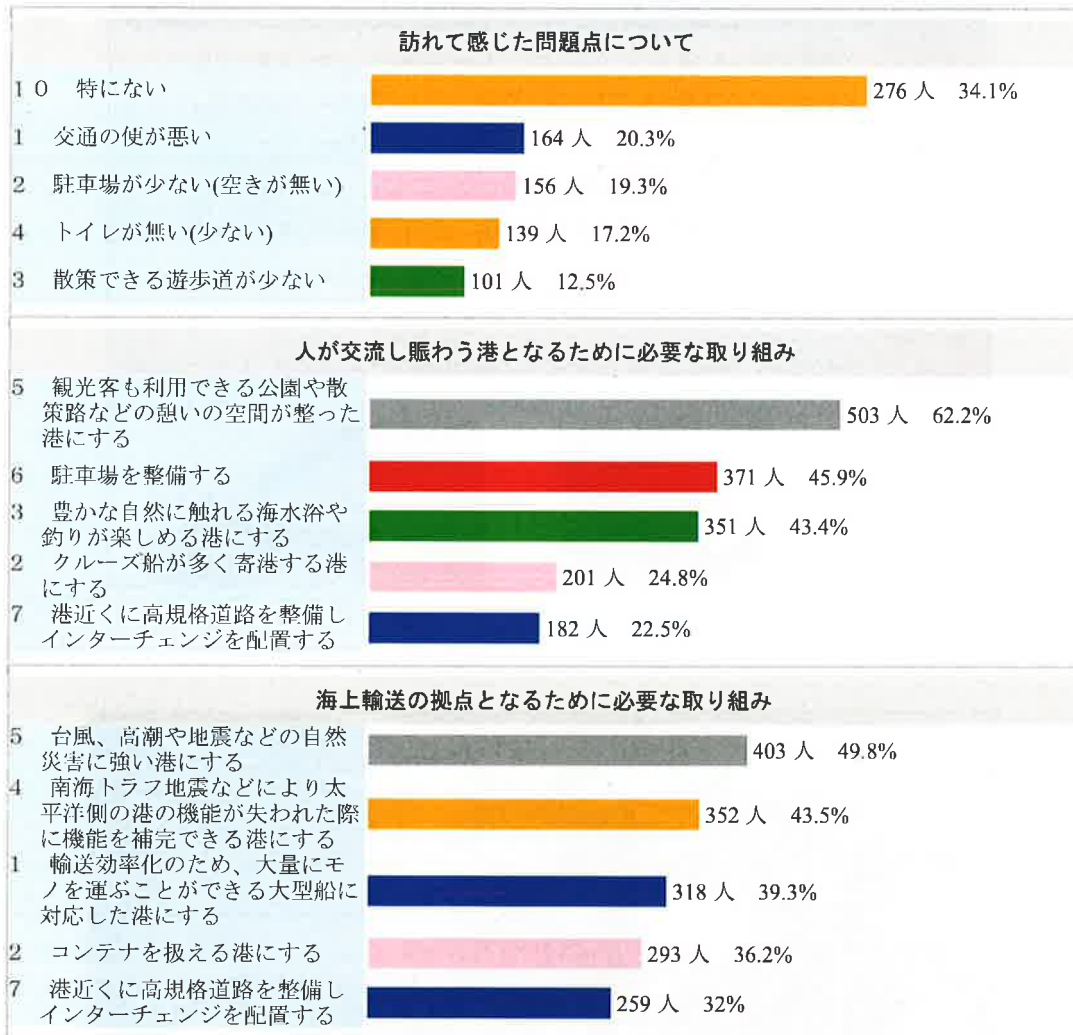


図 4-12 余暇活動で訪れた目的について

鳥取港の現状の問題点について、『特にない』が37% (276人)であったが、一方で、人流が賑わう港となるための取組みについて、『観光客も利用できる公園や散策路などの憩いの空間が整った港にする』が62.2% (503人)であり、賑わい空間の創出に課題があるという結果となりました。

また、海上輸送の拠点となるために必要な取組みについては、『台風、高潮や地震などの自然災害に強い港にする』が49.8% (403人)で最も多く、次いで『南海トラフ地震などにより太平洋側の港の機能が失われた際に機能を補完できる港にする』が43.5% (352人)となっており、地震に関する項目が上位を占める結果となりました。

表 4-1 県民の鳥取港に対する意見



資料：平成30年度第10回県政参画電子アンケート（平成31年1月）
各質問の回答結果は、上位5項目を抜粋

④ 地元小学校へのアンケート（賀露小）

港湾背後に立地する賀露小学校の生徒に対して、現在の鳥取港について説明を行った後、鳥取港の未来（30年後）について、アンケート調査を行いました。

（アンケート対象）

賀露小学校の生徒

賀露小アンケート～鳥取港（賀露港）の未来を考えよう～（令和元年9月）

いま ねんご とつとり ころ
今から30年後の鳥取港

どんな「みなと」になっていたらいいでしょうか。

考えてみよう

- ① 貨物船がたくさん来るようになるには何があったらいいでしょうか。工場？会社？
- ② 貨物船がたくさん来たら、鳥取市は、どうなるでしょうか。賀露は、どうなるでしょうか。
- ③ 「みなと」に、「どんなもの」があったら、人が集まるんでしょうか。
- ④ 外国のクルーズ客船が鳥取港にくるためには、何があったらいいでしょうか。
- ⑤ クルーズ客船で賀露に来る外国人観光客は、「何をしてあげたら」喜ぶでしょうか。
- ⑥ 地震や津波の後に、「みなと」は、どうなっているでしょうか。こわれないためには・・・
- ⑦ 地震や津波がきたときに、「みなと」にあったらいいのは、何でしょうか。
- ⑧ あなたは、「みなと」に何があれば、「行きたい」と思いますか。遊び場？レストラン？会社？ホテル？ゲームセンター？

◎クルーズ船(ばし
ふいっくびいなす)
とつとりころ きとき
が鳥取港に来た時
ようす
の様子

図 4-13 賀露小学校アンケート調査 設問



図 4-14 賀露小学校 鳥取港の紹介・説明

賀露小学校へのアンケートによると、鳥取港への要望等は、以下のとおりです。これから賀露のまちを担っていく子供たちは、「賑わい」、「レジャー」、「集客施設」を望んでいます。

とっと

表 4-2 鳥取港の将来について（賀露小）

番号	設問	主な回答(賀露小)
①	貨物船がたくさん来るには何が必要か。	「賀露の工業を見せるための工場」、「コンテナを保管できる大きい倉庫」、「宿泊(ゲストハウスなど)を増やして楽しんでもらう」、「貨物船が来るには、取引ができる会社」
②	貨物船がたくさん来たら、鳥取市・賀露はどうなるか。	「工場が増え、工業が盛んになり、賀露の町が栄える。」、「町が広くなる」、「人が増える」、「賀露に物資が集まり、とてもいいまちになる。」
③	「みなと」に、「どんなもの」があったら、人が集まるか。	「イベント(グルメフェスティバル、有名なキャラクター(ポケモン GO)など)」、「飲食施設(海鮮専門レストラン、ファストフード、タピオカ、チーズドッグ、屋台)」、「商業施設(ショッピングモール、道の駅、お土産屋、県産品の販売)」、「宿泊・休憩施設(温泉、ホテル)」、「レジャー・娯楽(水族館・博物館、遊園地、広場)」、「釣りサービス(釣具屋、釣り船、調理場の提供)」、「その他(駐車場、コンビニ等)」
④	外国クルーズ客船が来るには何が必要か。	「鳥取が都会になる(有名になる)」、「観光バス」、「高級レストラン」、「漫画、ゲーム」
⑤	クルーズ客船で来訪する外国人観光客は、「何をしてあげたら」喜ぶか。	「観光案内(ガイド、マップ、しおり、賀露の伝統紹介)」、「港のグッズ店」、「歓迎イベント」、「外国人向けの店(集まる場所)」、「記念品配布」
⑥	地震や津波の後、「みなと」は、どうなっているか。	「外壁を強くしたら壊れにくい」、「壊れないために頑丈にする。(金属性、下部をコンクリート)」
⑦	地震や津波の時、「みなと」に何が必要か。	「避難所、避難できる高台、波が来ても浸水しない建物」、「飲料・食料」、「病院」、「ライフジャケット、浮き輪」、「ベッド」、「懐中電灯」
⑧	あなたは、「みなと」に何があれば、「行きたい」と思うか。	「イベント(フェスティバル、芸能人)」、「飲食施設(レストラン(地場産品、海鮮)、出店(タピオカなど)、お洒落なカフェ)」、「商業施設(ショッピングモール)」、「宿泊・休憩施設(ホテル、温泉、足湯)」、「レジャー・娯楽(水上アスレチック、プール、遊園地、観覧車(景色が見える)、映画館、水族館、動物園、港の資料館、ゲームセンター)」

(2) 背後企業からの要請（アンケート調査・ヒアリング調査）

背後企業の要請を把握するため、鳥取県では、背後圏（22 所町村）の商工会議所へのアンケート（令和元年9月）、企業アンケート（平成29年1月）、企業ヒアリング（平成29年8月-令和元年10月）を実施しております。

① 商工会議所アンケート

背後圏（22 所町村）の商工会議所アンケート結果によると、3 商工会議所から鳥取港での海上輸送、クルーズ誘致に関心を持っている企業が確認されました。

その後、企業名が確認された数社を対象にヒアリング調査を実施し、鳥取港の利用可能性について確認しました（参照：③企業ヒアリング）。

（アンケート対象）

背後圏（22 所町村）の商工会議所：22 件

商工会議所アンケート（令和元年9月）

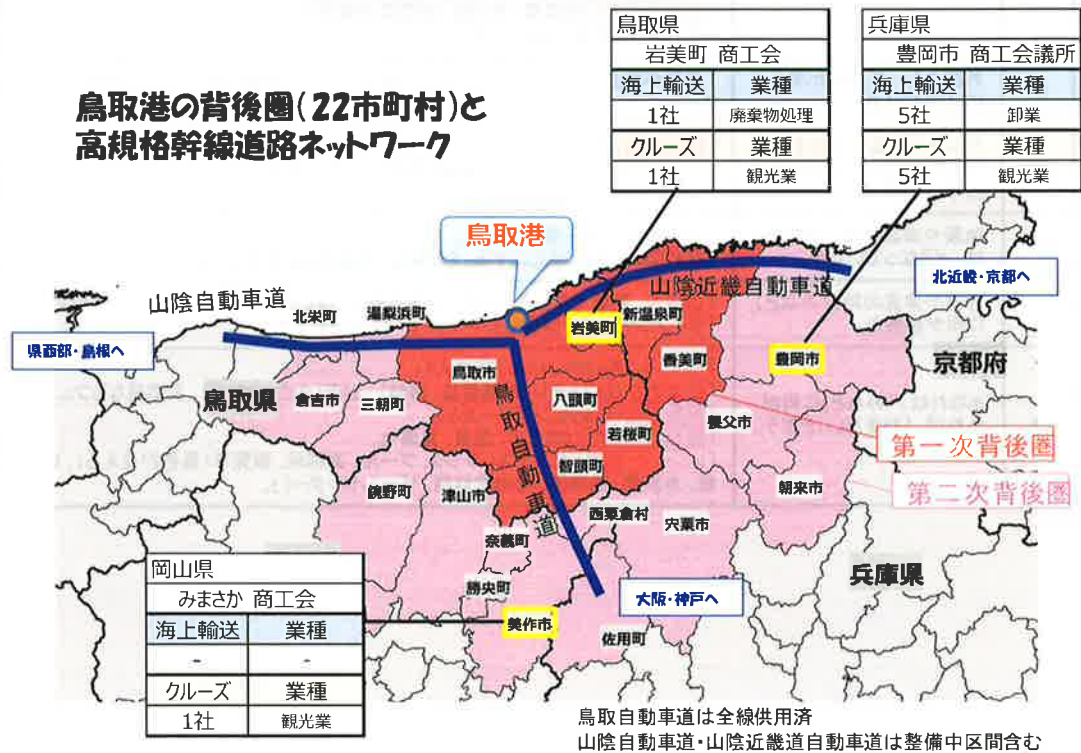


図 4-15 海上輸送、クルーズ誘致に関心を示した企業

② 企業アンケート

企業アンケート結果によると、鳥取港を利用するための条件として、『コンテナ航路(国際定期)の開設』が最も多く、次いで『小口混載サービスの充実』が上がっており、『輸出入手続き』、『検疫・検査体制』など CIQ 機能の強化も挙げられています。

また、現状の課題と関連する、『倉庫などの保管施設の充実』、『貨物取扱施設の強化(貨物船の大型への対応)』も利用の条件として挙げられています。

(アンケート対象)

鳥取県内企業：30 社
鳥取県外企業：10 社 (岡山県 6 社、兵庫県 2 社、山口県 1 社、愛媛県 1 社)

表 4-3 鳥取港の利用のための条件

利用のための条件	回答数
外貿(外国)コンテナ航路の開設	12
小口混載サービスの充実	9
輸出入手続きの簡素化・迅速化	6
倉庫などの保管施設の充実	5
食品・動植物などの検疫・検査体制の充実	4
内貿(国内)定期航路(フェリー・RORO)の開設	3
鳥取港の貨物取扱施設の強化(大型貨物船の入港など)	3
港までの道路整備	2
その他	25
合計	69

③ 企業ヒアリング

県内立地企業・進出企業・関心のある企業等へのヒアリングによると、鳥取港利用の要望は、以下のとおりです。背後企業からは、「船舶大型化」「貨物量増大」「新規取扱い貨物」「用地確保」等への対応が要請されています。

(ヒアリング対象)

鳥取港利用見込企業：10 社 (鳥取市内 5 社、岡山県 1 社、兵庫県 3 社、大阪府 1 社)

表 4-4 鳥取港利用の要望

鳥取港利用状況	業種	搬出地搬入地	ヒアリング内容
現在利用	製造業(製紙)	鳥取市	<ul style="list-style-type: none"> 鳥取港から発電燃料を調達しているが、船舶を大型化して輸送の効率化を図りたい。 船舶の大型化が進み、現状のタンカーの手配が困難になっている。大型タンカーに対応した岸壁を整備してほしい。 鳥取港でコンテナを扱うことが出来れば、利用を考える。現在は愛媛港を利用。
将来利用意向あり	製造業(航空機械)	鳥取市	<ul style="list-style-type: none"> 原材料を陸上輸送で調達しているが、重量物のため小ロットでしか運べない。鳥取港から海上輸送できれば、低コストで一度に多くの原材料を調達できる。製品出荷も同様。 航空機需要は、最新機材への更新、新興国のリージョナルジェット増加等により、今後増加する見通しである。
	建設資材(砂・砂利)	兵庫県姫路市	<ul style="list-style-type: none"> 鳥取港には現在用地に空きがないが、用地が確保されれば利用する可能性はある。
	エネルギー関連	鳥取市近隣県	<ul style="list-style-type: none"> 鳥取市内にバイオマス発電所を建設し、2022年に操業を開始する。鳥取港から再生可能エネルギーの燃料を輸入したい。 将来は鳥取港からの輸入量を増加させ、燃料供給拠点として近隣県へ供給したい。 保管用のサイロ、タンクを設置したい。
	商社(原木)	鳥取県東部・中部	<ul style="list-style-type: none"> 現在陸上輸送で原木を国内出荷しているが、ドライバー不足等の課題に対応し、鳥取港に内航船を寄港させ、海上輸送にシフトしたい。 新規取扱いが可能になれば、森林組合等と協働して、鳥取港からの原木輸出に取り組みたい。
	製造業(雑工業品)	兵庫県豊岡市	<ul style="list-style-type: none"> メリットがあれば利用したい。上海-鳥取航路があればよい(コンテナ)。

(3) 漁船・小型船舶利用者からの要請（ヒアリング調査）

漁船利用者及び小型船舶利用者(賀露・千代ボートパーク)へのヒアリングによると、鳥取港利用の要望は、以下のとおりです。鳥取港利用者からは、「第二防波堤の開口部の確保」「ゾーン区分」「大型ヨットの係留施設」等への対応が要請されています。

(ヒアリング対象)

鳥取県漁協 賀露支所、賀露小型船会、有限会社鳥取マリーナ

表 4-5 漁船利用者・小型船舶利用者の要望

ヒアリング内容	
漁船利用者	<ul style="list-style-type: none"> ● 西浜地区には冬場に「うねり」が入ってくる。 ● 東側から「うねり」が入った時に、西浜地区の緑地港内側を避難岸壁として利用したい。係船柱を何本か設置してほしい。 ● 第2防波堤を延伸する場合は、開口部100mを設けてほしい。 ● 観光客、釣り客、スケートボード利用者などが漁港区に立ち入ると漁業活動に影響があるため、利用区分してほしい。
小型船舶利用者	<ul style="list-style-type: none"> ● 県外者で鳥取港にクルーザーを置きたいという需要がある。係船杭をクルーザー(40~50フィート)、大型ヨットに対応した配置にすれば、利用船舶が増加する可能性がある。 ● 千代地区ボートパークの静穏度は年間を通じて悪い。 ● 賀露地区ボートパークは、遊漁船の利用が多くなっている。 ● 航路を変更する場合、標識、航路ブイ等の措置が必要である。 ● 千代航路の航路幅は、100mは必要である。



図 4-16 漁船利用者のその他の要望

(4) 鳥取港賑わいづくり検討会

観光分野に視点を置いた「鳥取港賑わいづくり検討会」を令和2年1月28日に開催しました。検討会の目的は、以下のとおりです。

- ・高規格幹線道路網の整備が進む中で、交通結節点にある鳥取港周辺エリアが、鳥取県東中部・但馬地方の観光・交流・情報の玄関口となることを目指す。
- ・鳥取空港と鳥取港の連絡道路整備による、両港のアクセス性向上・2次交通の整備・集客イベントなどの連携により、両港エリア一帯での消費拡大と地域経済の好循環を加速化する。

関係者からは、「賑わい施設の整備」や、「アクセスの充実」、「歴史の活用」等、様々な意見が出ています。

表 4-6 鳥取港賑わいづくり検討会の主な意見

	委員の意見
情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 指定管理者制度を導入した「かにっこ館」の来場者数が過去最高を記録。(以下要因) <ul style="list-style-type: none"> ①改元、夏休み、年末年始等で長期休暇が多かった。 ②大型連休に、各種イベントを実施。 ③施設投資(芝生の整備、貸出遊具の調達等) ● 緑地公園でイベントを開催したが、トイレが不足した。 ● マリンピア賀露のトイレ環境が良くない。 ● ウォーキング(イベント)は、風光明媚なコースでリピーターが多い。 ● みなと公園の駐車場が機能していない。 ● 17団体が週交代で西浜海岸の清掃を実施している。
提案・意見	<ul style="list-style-type: none"> ● 賀露神社等の昔からある街並み・歴史も活用できないか。 ● クルーズ船の賑わいも検討出来ないか。(検討会、イベント、住民による地域サポート一活動)。 ● 鳥取大学との連携ができないか(ゼミ活動、サークル活動)。 ● 海水浴場の利用者が減少。協力金による運営では限界がある。
要望・要請	<ul style="list-style-type: none"> ● 賀露神社の土地(雑木林)に公園の整備を要望。高台で見晴らしがよく、歴史の資料館等を整備すれば子供から老人まで利用できる。周遊にも役立つ。 ● 地域の伝統芸能、歴史、文化、食など、情報発信できる施設の設置。 ● 旅行者の二次交通確保が必要である。(レンタサイクル等) ● ビーチスポーツのポテンシャルが高い砂浜である。休憩スペースが不足。

パブリックコメントでは、「物流機能の強化」、「賑わい施設の整備」、「アクセス改善」など、様々な意見が出ています。

表 4-7 鳥取港長期構想に対する意見

	意見
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ●大型貨物船の誘致やドライバー不足によるモーダルシフトの推進など、日本海側の拠点港湾として機能強化を図ってほしい。 ●倉庫やコンテナ保管場所の確保による地元企業地域産業の支援や、鳥取港利用(外貨貨物)の誘致活動をしてほしい。 ●水産業の発展に寄与し、集客施設間の周遊性を確保してほしい。 ●砂丘の侵食や飛砂、砂の流入による港内埋没の予防について留意してほしい。 ●適正な維持管理を行い、施設の長寿命化を図ってほしい。 ●鳥取県東部のみでなく、岡山、四国、関西の貨物を取り込めば、韓国や中国、ロシアなど対岸貿易の基地となるのではないか。
人流	<ul style="list-style-type: none"> ●鳥取港と舞鶴港、博多港、下関港などの区間にフェリーを就航させれば、日本海側の都市との交流を活発になるのではないか。 ●クルーズ船、フェリー航路、遊覧船などを開拓してほしい。また、公共交通機関や外国人観光客受入体制を充実させ、砂丘や浦富海岸などの周辺スポットと連携を図ってほしい。 ●開放的なビーチを活かしてサーフィン、スケートボードなど施設を整備すれば、利用者(観光客)の集客になるのではないか。 ●鳥取砂丘などの観光資源や、鳥取道による良好なアクセスを活かせば、クルーズ船や観光遊覧船が便利になるのではないか。 ●鳥取のシンボルになるような公園を作り、イルミネーションなどの導入で若者や家族連れが楽しめる場所にしてほしい。
物流	<ul style="list-style-type: none"> ●災害時に利用可能な航路の設定や、備蓄倉庫の確保など、道路閉塞時でも港湾が活用できるよう機能を充実してほしい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●観光客に良い印象を持ってもらい再度来訪をしてもらうよう、鳥取港内のゴミ対策をしてほしい。 ●鳥取県東部の経済にとって鳥取港は重要であるが、鳥取砂丘への影響が心配である。対応について長期構想で示してほしい。

第5章 鳥取港長期構想

5-1. 将来像

鳥取港の周辺環境、上位計画、課題、要請より、鳥取港の果たすべき役割は、主に、物流、人流、安全・安心に分けられます。

物流における役割は、「将来にわたって鳥取県の経済を支えるため、輸送の効率化、多様性による地域産業の振興を担っていかなければならない。」

人流における役割は、「住む人、訪れる人にとって魅力ある地域を継続するため、地域資源を活用した賑わい・憩い空間の形成による交流拠点として機能していかなければならない。」

安全・安心における役割は「安全な暮らしと企業活動を継続するため、防災と安全性を備えた自然災害に強い港づくりを進めていかなければならない。」と考えられます。

以上の鳥取港の果たすべき役割に基づき、鳥取港長期構想を検討しました。

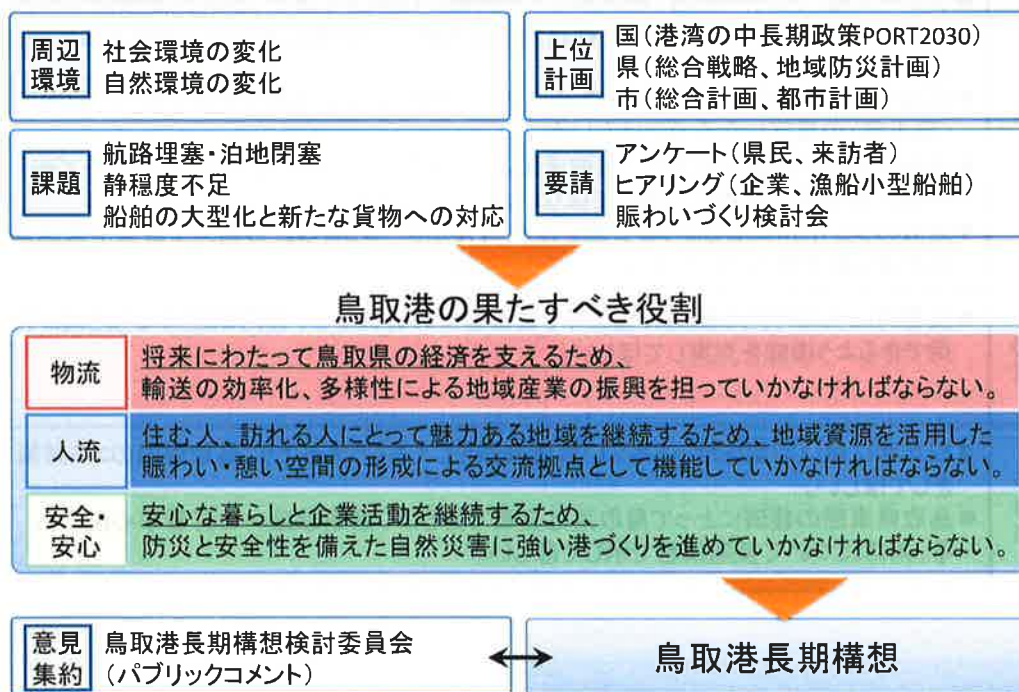


図 5-1 鳥取港長期構想の検討フロー

鳥取港の抱える問題解決と地域からの要請を踏まえ、鳥取らしい地方創生の実現するため、3つの視点から将来像を目指します。

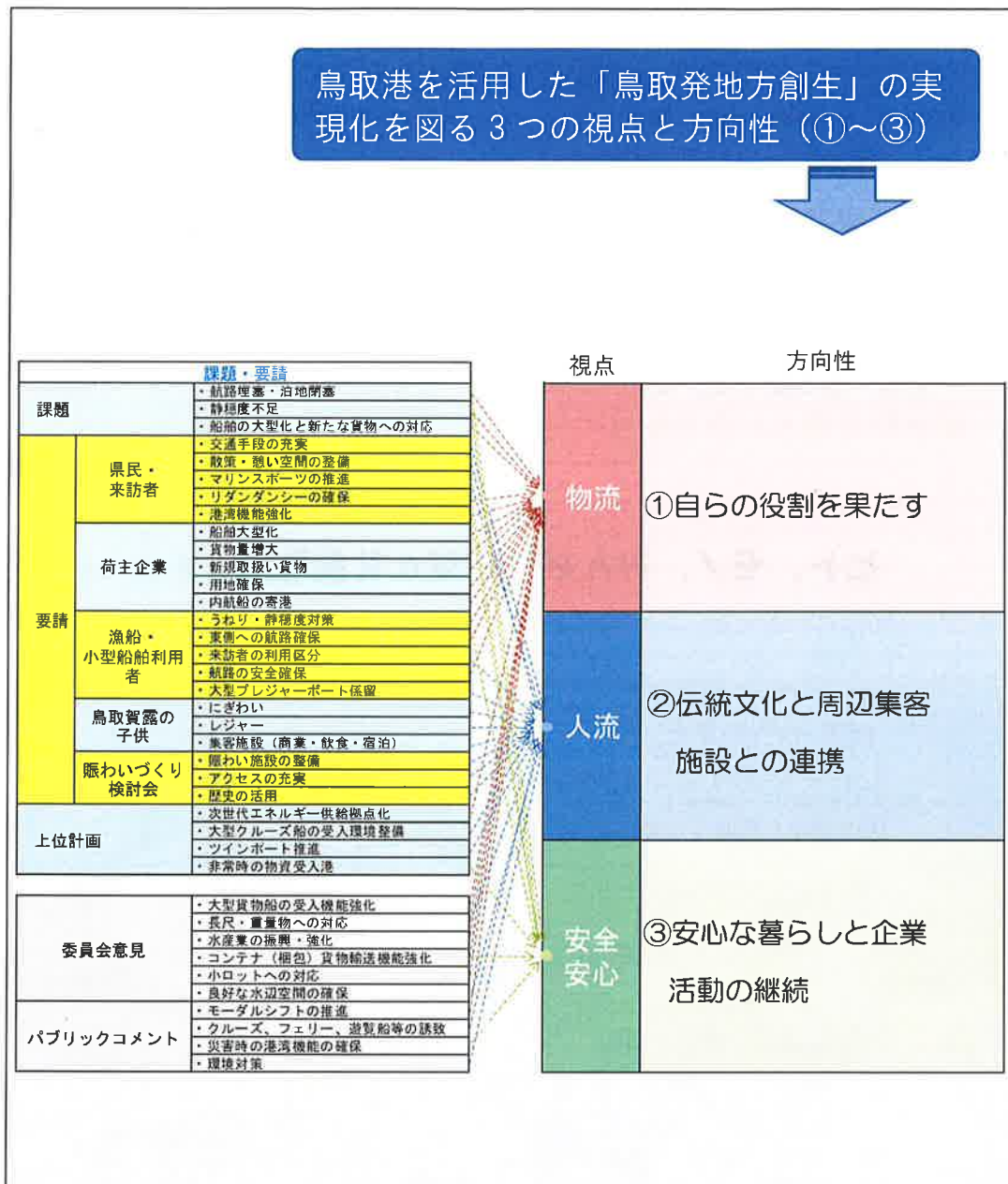


図 5-2 将来像の設定

鳥取港の将来像

日本海の玄関口 鳥取港

鳥取港の抱える問題解決と地域からの要請を踏まえ抽出した課題に対応するため、3つの視点（物流、人流、安全・安心）から、鳥取港の将来像を目指します。

物流面では、自らの役割を果たす「**輸送の効率化、多様性による地域産業を振興する港**」を目指します。

人流面では、**伝統文化と周辺集客施設「地域資源を活用した賑わい・憩い空間の形成による交流拠点となる港**」を目指します。

安全・安心面では、**安心な暮らしと企業活動が継続する「防災と安全性を備えた自然災害に強い港**」を目指します。

また、鳥取港長期構想の理念として、

ヒト、モノ、みんな「きなんせ鳥取港」 を掲げます。



図 5-3 将来の姿

5-2.基本戦略

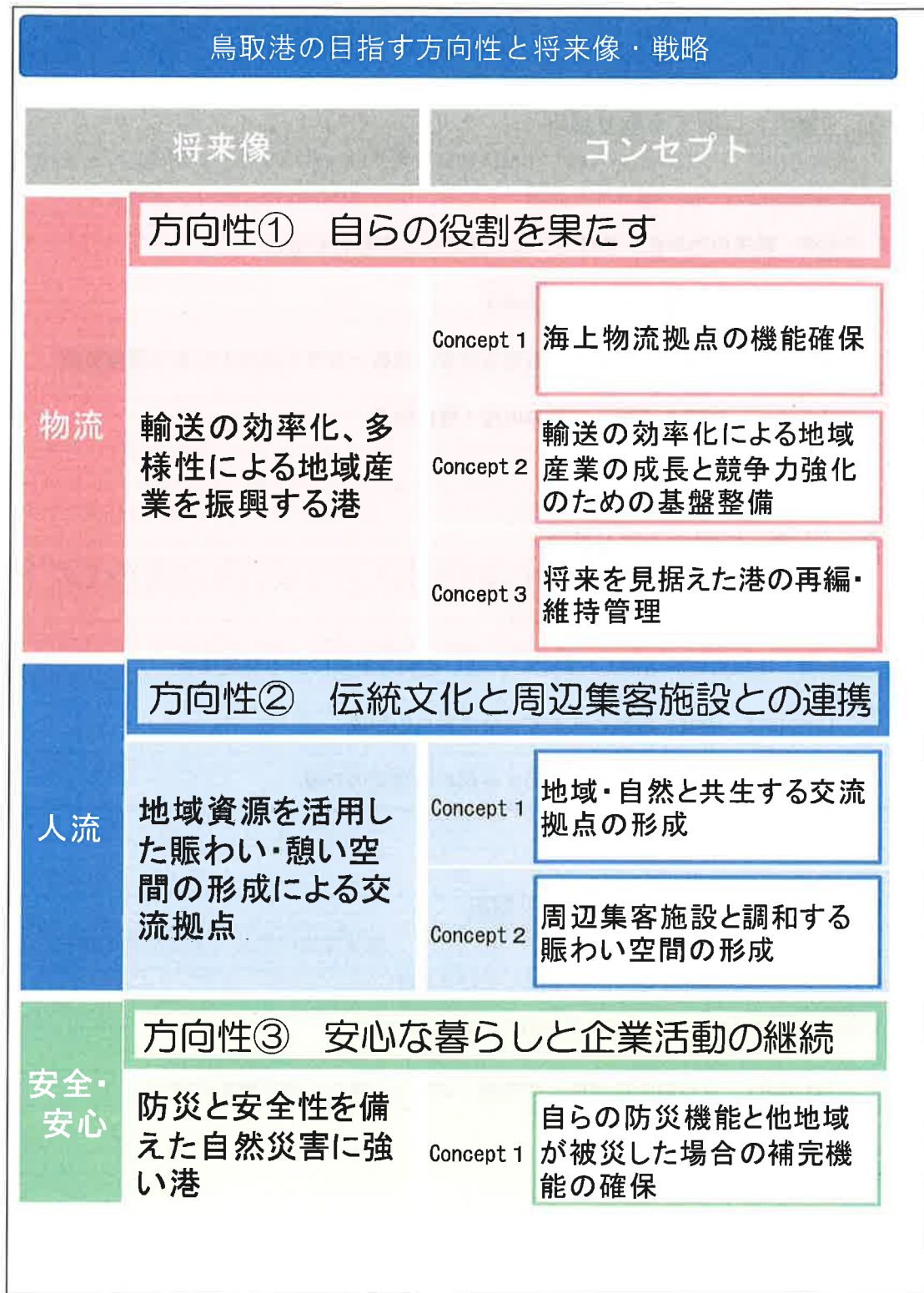


図 5-4 方向性及び基本戦略

5-3. 施策・取組み内容

鳥取港が抱える問題点に対し、鳥取港を活用した「鳥取発地方創生」の実現化を図るため、「物流」、「人流」、「安全・安心」の3つの視点から取り組みを図っていきます。

①. 「物流」に関する取り組み

鳥取港にいつでも船舶が入港し荷役活動を行え、かつ地域特性や産業構造などを踏まえた鳥取港ならではの独自性を発揮するため、次の具体的な取り組みを進めます。

将来像：輸送の効率化、多様性による地域産業を振興する港

Concept1 海上物流拠点の機能確保

Concept2 輸送の効率化による地域産業の成長と競争力強化のための基盤整備

Concept3 将来を見据えた港の再編・維持管理

②. 「人流」に関する取り組み

鳥取県の伝統文化を尊重し、多様な観光資源を生かした観光立県を実現するため、次の具体的な取り組みを図って行きます。

将来像：地域資源を活用した賑わい・憩い空間の形成による交流拠点

Concept1 地域・自然と共生する交流拠点の形成

Concept2 周辺集客施設と調和する賑わい空間の形成

③. 「安全・安心」に関する取り組み

鳥取港が鳥取市の地域防災拠点の一つとして、地域住民の生活・企業活動の継続などのため、次の具体的な取り組みを図って行きます。

将来像：防災と安全性を備えた自然災害に強い港

Concept1 自らの防災機能と他地域が被災した場合の補完機能の確保

(1) 「物流」に関する具体的な取り組み

【方向性①】 自らの役割を果たす物流拠点

▼
 (鳥取港の将来像) 物流拠点機能の確保・輸送ニーズの効率化・多様性による地域産業を振興する港

1) 背景

鳥取港は、これまで石油製品や砂・砂利等の内貿貨物を中心に取扱ってきましたが、近年、原木の輸出やPKSの輸入など、大型船による新たな貨物の取扱が始まっています。船舶の大型化に伴い、係留できる岸壁に限られるため、最も水深の深い1号岸壁(-10m)及び2号岸壁(-7.5m)に利用が集中し、背後の野積場用地が不足しています。このような中、より大型な船舶を利用したいとの要請や鳥取市及び背後地に立地する工場等では、海外の原材料の輸入や製品の輸出の意向が示されています。また、鳥取市内で新たなバイオマス発電所の計画と稼働に伴う新規貨物の取扱いが見込まれています。

一方で、防波堤への消波ブロック設置による反射波対策など港内の静穏度向上を図っていますが、未だ港内静穏度が十分でない状況にあります。また、千代川の河口付近に位置する千代航路周辺は、冬季風浪や台風などの厳しい気象、海象条件などにより特殊な波が発生することがあり、船舶への影響が懸念されています。

このような背景を踏まえ、港内静穏度の向上や船舶航行の安全確保に向けて、「海上物流拠点の機能確保」に取り組めます。さらに、船舶の大型化やモーダルシフトなど、輸送ニーズの多様化や効率化に対応し、鳥取港の背後地域に立地する成長産業に貢献するため、港湾機能の強化や港湾アクセス道の強化を図り、「輸送の効率化による地域産業の成長と競争力強化のための基盤整備」に取り組めます。また、ふ頭用地の拡充や強化と適切な維持管理に向けて、「将来を見据えた港の再編・維持管理」に取り組めます。

●海上物流拠点の機能確保

(取組みの例)

主要航路の埋没に対応するため、代替輸送航路を確保します(早急に実施)。また、港内静穏度の向上を図るため、防波堤の整備や嵩上げを行い、航路の強靭化を図るため、緊急時の代替航路の確保及び西浜航路をメイン航路とした整備を行います。特に、緊急性、着手の容易性などから施設整備手順を設定し、効率的な港湾整備に努めます。なお、港湾整備にあたっては、各関係機関が連携して鳥取砂丘など周辺海岸への影響を調査し、「鳥取沿岸の総合的な土砂管理ガイドライン」に基づき対応していきます。

(一例)

戦略	取組概要	具体的な取組例
船舶航行の安定化	利用船舶が安定して安全に航行(信頼性の向上)できるよう航路整備に取り組む。	・代替輸送航路の確保 (第3防波堤の撤去、緊急航路の浚渫)
港内静穏度の向上	利用船舶が安定して安全に荷役(信頼性の向上)できるよう静穏度向上に取り組む。	・防波堤の延伸 (第1防波堤、第2防波堤) ・防波堤の嵩上げ (第2防波堤、第8防波堤) ・波浪の観測、調査、研究
船舶大型化への対応航路の確保	利用船舶の大型化に対応できるよう航路整備に取り組む	・防波堤の撤去 (第3防波堤) ・航路泊地の浚渫 ・主要航路を千代航路から西浜航路にシフト

※下線は今後の取組の一例です。



① 早急に実施 解決する課題

- ・第3防波堤の撤去 主要航路(千代航路)埋没時の
- ・緊急航路の浚渫 代替輸送航路(西浜航路)の確保

② 当面の対策 解決する課題

- ・防波堤嵩上げ (第2、第8防波堤) 漂着ごみ流入、静穏度不足

③ 抜本的対策 解決する課題

- ・第1防波堤(西)の延伸
- ・第3防波堤の撤去 航路埋塞、静穏度不足、船舶大型化、用地不足
- ・第2防波堤の延伸
- ・航路泊地の浚渫
- ・沖合展開

●輸送の効率化による地域産業の成長と競争力強化のための基盤整備

(取組みの例)

大量輸送による物流コスト低減を推進するため、大型貨物船に対応した施設整備を行います。また、コンテナ(梱包貨物)取扱機能の強化を図るための施設整備を行います。山陰近畿自動車道、山陰自動車道、鳥取自動車道等の整備強化、南北線(鳥取豊岡宮津自動車道(鳥取-福部))の整備計画に合わせた港湾アクセス道の強化を図ります。

(一例)

戦略	取組概要	具体的な取組例
港湾機能の強化	地域の要請(利用船舶の大型化、モーダルシフト対応、コンテナ輸送)に応じた港湾機能の整備により、企業活動を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> 船舶大型化に対する施設整備 コンテナターミナルの計画(航路誘致、荷役業者の確保、ポートセールスの実施) コンテナ取扱施設の整備(リーチスタッカー、トップリフター等の荷役機械、舗装強化、倉庫整備) 事業者への補助(バース運営企業、モーダルシフト利用企業)
港湾へのアクセス道路強化	整備が進む高規格道路、幹線道路と港湾のアクセス強化を図り、港湾利用の円滑化に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 臨港交通機能の強化(臨港道路の延伸整備) 南北線との連携強化 大型特殊車両の走行ルート検討 照明の強化(道路、ゲート周辺)

※下線は今後の取組の一例です。

The diagram shows a port layout with various berths and storage areas. Labels include '外航貨物船' (Foreign cargo ship), '内航貨物船' (Domestic cargo ship), and '内航コンテナ' (Domestic container). A red dashed line indicates an 'アクセス道路強化' (Access road reinforcement) project. To the right, two photographs show a current 10,000 DWT ship at the port and a future 30,000 DWT ship (MUTSU (PKS運搬船)) at the port. The source is cited as '資料:新高知重工株式会社'.



●将来を見据えた港の再編・維持管理

(取組みの例)

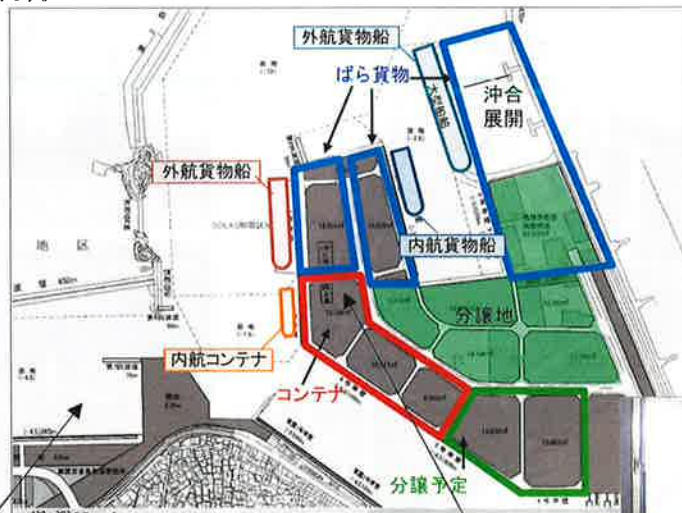
港湾利用企業の多様な輸送ニーズに対応するため、高付加価値製品や原材料、危険物等を取り扱うふ頭用地の確保、保管施設等の整備を行います。また、地元の水産業の振興・強化を図るため、漁業活動への支援を行います。

さらに、施設の適正な維持管理を図るため、長寿命化計画による適切な維持管理を行っていきます。

(一例)

戦略	取組概要	具体的な取組例
ふ頭用地確保	ふ頭の造成、用地再編し、物流拠点として効率的な土地利用を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ふ頭用地の造成 (港湾利用企業の誘致) ふ頭川地の再編
ふ頭機能の強化	港湾利用企業の多様な輸送ニーズに対して、施設整備、既存施設を有効利用する。	<ul style="list-style-type: none"> 上屋の整備、改修 ヤードの占用許可 (バイオマス燃料ストック施設等) 漁業施設の占用条件の緩和 民間施設、水産施設整備に対する補助支援 (重油タンク増強等)
適正な施設管理	港湾関連施設の適正な維持管理を実施し、施設の長寿命化に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 長寿命化計画による適正な維持管理 水産施設の適正な維持管理 (防舷材、車止め、係船設備、上屋)

※下線は今後の取組の一例です。



2) 物流に関する背景及び今後の取組み内容に対する施策（まとめ）

背景	<ul style="list-style-type: none"> ○ 荒天時に既存防波堤を越波し港内に押し寄せるなど、港内静穏度に関する問題 ○ 厳しい気象、海象条件などにより特殊な波が発生 ○ 主に中小型船舶に対し出港時の安全性の向上が問題 ○ 水深の深い岸壁及び野積場への過度な利用の集中 ○ 新たな外貨貨物の取扱いニーズの拡大への対応不足 ○ 船舶の大型化への対応困難 ○ PKSや林産品等の取扱い拡大への対応不足 ○ コンテナ貨物の取扱い機能の不足
----	--

戦略	取組概要	具体的な取組例	取組時期				対象地区
			既存	短期	中期	長期	
Concept1 海上物流拠点の機能確保							
船舶航行の安定化	利用船舶が安定して安全に航行（信頼性の向上）できるよう航路整備に取り組む。	・ 代替輸送航路の確保（第3防波堤の撤去、緊急航路の浚渫）		■			千代地区 西浜地区
港内静穏度の向上	利用船舶が安定して安全に荷役（信頼性の向上）できるよう静穏度向上に取り組む。	・ 防波堤の延伸（第1防波堤、第2防波堤） ・ 防波堤の高上げ（第2防波堤、第3防波堤） ・ 波浪の観測、調査、研究		■			全地区
船舶大型化への対応航路の確保	利用船舶の大型化に対応できるよう航路整備に取り組む。	・ 防波堤の撤去（第3防波堤） ・ 航路泊地の浚渫 ・ 主要航路を千代航路から西浜航路にシフト		■			千代地区 西浜地区
Concept2 輸送の効率化による地域産業の成長と競争力強化のための基盤整備							
港湾機能の強化	地域の要請（利用船舶の大型化、モーダルシフト対応、コンテナ輸送）に応じた港湾機能の整備により、企業活動を支援する。	・ 船舶大型化に対する施設整備 ・ コンテナターミナルの計画（船路誘致、船積業者の確保、ボートセールスの実施） ・ コンテナ取扱施設の整備（リーチスタッカー、トップリフター等の荷役機械、舗装強化、倉庫整備） ・ 事業者への補助（バース運営企業、モーダルシフト利用企業）			■		千代地区
港湾へのアクセス道路強化	整備が進む高規格道路、幹線道路と港湾のアクセス強化を図り、港湾利用の円滑化に取り組む。	・ 臨港交通機能の強化（臨港道路の延伸整備） ・ 南北線との連携強化 ・ 大型特殊車両の走行ルートの特設 ・ 照明の強化（道路、ゲート周辺）			■		千代地区
Concept3 将来を見据えた港の再編・維持管理							
ふ頭用地確保	ふ頭の造成、用地再編し、物流拠点として効率的な土地利用を推進する。	・ ふ頭用地の造成（漁港利用企業の誘致） ・ ふ頭用地の再編			■		千代地区
ふ頭機能の強化	港湾利用企業の多様な輸送ニーズに対して、施設整備、既存施設を有効利用する。	・ 上屋の整備、改修 ・ ヤードの占用許可（LPG・オマース燃料ストック庫等） ・ 漁業施設の占用条件の緩和 ・ 民間施設、水産施設整備に対する補助支援（魚油タンク増強等）			■		全地区
適正な施設管理	港湾関連施設の適正な維持管理を実施し、施設の長寿命化に取り組む。	・ 長寿命化計画による適正な維持管理 ・ 水産施設の適正な維持管理（防枝柱、車止め、係船設備、上屋）			■		全地区

※下線は今後の取組の一例です。



鳥取港の将来像（イメージ）

- 地域産業や成長産業を支え多様なニーズに応える港湾
- 高付加価値製品の出荷拠点となる港湾

(2) 「人流」に関する具体的な取り組み

【方向性②】 伝統文化と周辺集客施設と連携した賑わい拠点



(鳥取港の将来像) 地域資源を活用した賑わい・憩い空間の形成による
交流拠点

1) 背景

鳥取港は、鳥取大砂丘や海産物市場・農産物直売所と近接しており、周辺観光施設では年間延べ400万人（平成29年）が訪れる一大観光地となっています。また、高規格幹線道路の整備・計画が進む等、国立公園大山や三徳山・三朝温泉を代表とする魅力ある自然・歴史・温泉などと連携した広域的な観光地として、県内外・国内外から大勢の観光客が訪れています。

今後、我が国では訪日外国人観光客を令和12年には6,000万人を目標とするなど、観光による交流人口の拡大は成長戦略の大きな柱の一つであり、かつ地方創生の切り札となっています。全国各地や国外の人々が訪れたい鳥取を目指し、観光先進県という新たな高みを実現していくことが望まれています。

このような背景のもと、今後、ますます増加が見込まれる国内外の観光客への対応など、交流と親水空間の形成を図るため、「地域・自然と共生する親水空間と交流拠点の形成」、「周辺集客施設と調和する賑わい空間の形成」等の取り組みを進めます。

●地域・自然と共生する親水空間と交流拠点の形成

(取組みの例)

地域の歴史・文化活動を支援するため、伝統行事などへの地元利用を積極的に支援します。また、自然との共生を図るため、水辺空間を確保します。

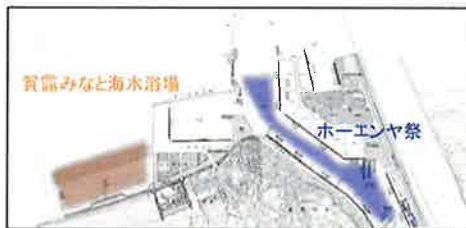
(一例)

戦略	取組概要	具体的な取組例
地域の歴史・文化活動の支援	地元自治体等と連携し、伝統行事・イベントを開催し、地域が活性化する空間を形成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホーエンヤ：水域占用の許可の優遇措置 ・白いか祭り：物販規制の緩和、水道等の施設開放 ・賀露神社の祭りごと支援 ・賀露自治会イベントで施設使用をする際の優遇
自然との共生	西浜地区（賀露みなと海水浴場）の保全（ハード施策）、利活用推進（ソフト施策）を行い、自然体験・共生空間を形成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ビーチスポーツの推進（ビーチサッカー大会誘致） ・利用条件の緩和（物販許可） ・ビーチクリーン活動 ・設備（シャワー、水道）の増強、休憩施設の設置
交流拠点の再配置	港湾緑地を再整備し、新たなニーズ・ターゲットに対応した連続性のある交流空間を形成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・緑地遊歩道の計画（ルート、対象（人、自転車）、施設配置（トイレ、駐車場） ・ストリートスポーツ施設の配置計画（コンクリート舗装スペース）

※下線は今後の取組の一例です。

※取組の推進に当たっては、鳥取港賑わいづくり検討会にてとりまとめが行われている鳥取港賑わいづくり基本計画と連携を図る。

●ホーエンヤ（水域占用の許可の優遇措置）



●ビーチスポーツの推進（ビーチサッカー大会誘致）
JFA全日本ビーチサッカー大会
（令和元年9月6日）



●緑地遊歩道の計画

みなと公園



●周辺集客施設と調和する賑わい空間の形成

(取組みの例)

賑わい空間の拡大を図るため、周辺集客施設との連携を促進します。また、海・空の港（ツインポート）の連携推進を図るため、イベントの連携等を行います。さらに、交通手段を充実させるため、バス路線等を整備するとともに、交流拠点の再配置を行います。そして、クルーズ船受け入れのための施設などの整備を行い、観光交流拠点の形成を図ります。

(一例)

戦略	取組概要	具体的な取組例
賑わい空間の拡大	県、市の関係部局、地元、民間企業、団体が官民一体となり、鳥取港の賑わい空間の創出、拡大を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の大型集客施設とのイベント連携 ・賑わいゾーンの施設整備（ボートパーク、マリニピア、ストリートスポーツスペース、西浜海水浴場周辺） ・マリニピア賀露を中心としたイベント開催における港内関係者との連携 ・教育機関との連携（大学のゼミ活動、サークル活動） ・西浜緑地での釣り大会（日本海新聞主催） ・公共上屋未利用時の開放（全天候型スケボー教室、お化け屋敷、ドライブシアター等） ・集客施設の誘致（港湾用地へ飲食、商業、宿泊、レジャー、娯楽施設の誘致）
海・空の港（ツインポート）の連携推進	空港と港湾が近接する立地を活かし、ツインポート懇談会や空港・港湾のイベントが連携して賑わい空間を形成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・空港レンタカーの共同運用・定額タクシー・レンタサイクル ・空港利用客の「時間つぶし」を鳥取港周辺に誘導するシャトルの運用 ・マリニピアでの空港イベント告知するデジタルサイネージ整備
観光交流拠点形成	クルーズ船の受け入れ環境を整える。地元、背後企業、商業施設が一体となって観光対策に取り組み、中近距離の観光拠点を形成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・クルーズ乗降付近大型テント ・クルーズおもてなし（観光案内、歓迎イベント、記念品等）の充実、支援（市、自治会、小学校、商工会）
交通手段の充実	クルーズ客等の来訪者に対する交通サービスを充実し、陸・海・空へアクセスできる多様な交通結節点を形成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・空港へのアクセス（ジオコムス、タクシー、レンタカー） ・ジオパークへのアクセス（バス、水陸両用飛行機、タクシー、レンタカー） ・千代地区から賀露地区へのアクセス（シャトル、渡し舟、レンタサイクル）

※下線は今後の取組の一例です。

※取組の推進に当たっては、鳥取港賑わいづくり検討会にてとりまとめが行われている鳥取港賑わいづくり基本計画と連携を図ります。



2) 人流に関する背景及び今後の取組み内容に対する施策（まとめ）

背景	<ul style="list-style-type: none"> ○国内外からの来訪客増加による集客施設の対応不足 ○観光客増加に伴う休息施設や移動手段の不足 ○高速道路の整備等に伴う観光圏域拡大への対応の不足 ○近年大型化するクルーズ船寄港施設の不足
----	--

戦略	取組概要	具体的な取組例	取組時期				対象地区
			既存	短期	中期	長期	
Concept1 地域・自然と共生する交流拠点の形成							
地域の歴史・文化活動の支援	地元自治体等と連携し、伝統行事・イベントを開催し、地域が活性化できる空間を形成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホーモンヤ：水城古川の許可の貸出措置 ・白ひよりの：物販規制の緩和、水遣等の施設開放 ・賀露神社の祭りごと支援 ・賀露自治会イベントで施設使用を促す等の機遇 	■				全地区
自然との共生	西浜地区（賀露みなと海水浴場）の保全（ハード施策）、利活用推進（ソフト施策）を行い、自然体験・共生空間を形成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ビーチスポーツの推進（ビーチサッカー大会誘致） ・利用条件の緩和（砂浜許可） ・ビーチクリーン活動 ・設備（シャワー、水道）の増強、休憩施設の設置 	■				西浜地区
交流拠点の再配置	港湾緑地を再整備し、新たなニーズ・ターゲットに対応した連続性のある交流空間を形成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・緑地歩道の計画（ルート、対象（人、自転車）、施設配置（トイレ、駐車場）） ・ストリートスポーツ施設の配置計画（コンクリート舗装スペース） 		■			賀露地区 千代地区
Concept2 周辺集客施設と調和する賑わい空間の形成							
賑わい空間の拡大	県、市の関係部局、地元、民間企業、団体が官民一体となり、鳥取港の賑わい空間の創出、拡大を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の大型集客施設とのイベント連携 ・賑わいゾーンの施設整備（ポートパーク、マリニア、ストリートスポーツスペース、西浜海水浴場周辺） ・マリニア賀露を中心としたイベント開催における港内関係者との連携 ・教育機関との連携（大学のゼミ活動、サークル活動） ・西浜緑地での釣り大会（日本海新聞主催） ・公休上屋未利用時の開放（全天候型スケボー教室、お化け屋敷、ドライブシアター等） ・集客施設の誘致（遊園地へ飲食、商業、宿泊、レジャー、娯楽施設の誘致） 	■				全地区
海・空の港（インポート）の連携推進	空港と港湾が近接する立地を活かし、ツインポート懇談会や空港・港湾のイベントが連携して賑わい空間を形成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・空港レンタカーの共同運用・定額タクシー・レンタサイクル ・空港利用客の「時間つぶし」を鳥取港周辺に誘導するシナリオの運用 ・マリニアでの空港イベント告知するデジタルサイネージ整備 		■			賀露地区
観光交流拠点形成	クルーズ船の受入れ環境を整える。地元、背後企業、商業施設が一体となって観光対策に取り組み、中近距離の観光拠点を形成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・クルーズ乗降付近大型テント ・クルーズおきてなし（観光案内、整理イベント、記念品等）の充実・支援（市、自治会、小学校、商工会） 		■			千代地区
交通手段の充実	クルーズ客等の来訪者に対する交通サービスを充実し、陸・海・空へアクセスできる多様な交通結節点を形成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・空港へのアクセス（ジオコムス、タクシニ、レンタカー） ・ジオパークへのアクセス（バス、水上飛行機、タクシニ、レンタカー） ・千代地区から賀露地区へのアクセス（シヤトル、渡し舟、レンタサイクル） 		■			千代地区 賀露地区

※下線は今後の取組の一例です。
 ※取組の推進に当たっては、鳥取港賑わいづくり検討会にてとりまとめが行われている鳥取港賑わいづくり基本計画と連携を図ります。



鳥取港の将来像（イメージ）

- 地域の観光産業を支える港湾
- 全国各地や国外の人々が訪れたい鳥取を迎える、クルーズ船が寄港する港湾

(3) 「安全・安心」に関する具体的な取り組み

【方向性③】 安心な暮らしと企業活動継続を支援する防災拠点

(鳥取港の将来像) 防災と安全性を備えた自然災害に強い港

1) 背景

鳥取港は、約20万人が暮らす特例市である鳥取市を背後に、鳥取県東部ひいては、但馬地方・岡山県北部地方の暮らし、経済、産業の発展に大きく関わってきました。今後は環日本海、東南アジアとの間の各種資材、エネルギー分野の輸出入拠点港として、ますます背後圏の産業競争力の向上と、経済活性化への一層の貢献が期待されています。

このような中で、災害時におけるダメージを、港湾関係者の協働により最小限に食い止め、背後圏の暮らしや産業機能の迅速な復旧に資することを目的に平成28年3月港湾BCPを策定しました。

近年では、発展を続ける高規格幹線道路網と連携し、阪神港等が有事の際に一部の代替機能を担うことにより、広域的なリダンダンシーの確保に寄与することが求められています。

このような背景のもと、災害時の港湾を拠点とした対応など、非常時における防災機能の強化を図るため、「自らの防災機能と他地域が被災した場合の補完機能の確保」等の取り組みを進めます。

●自らの防災機能と他地域が被災した場合の補完機能の確保

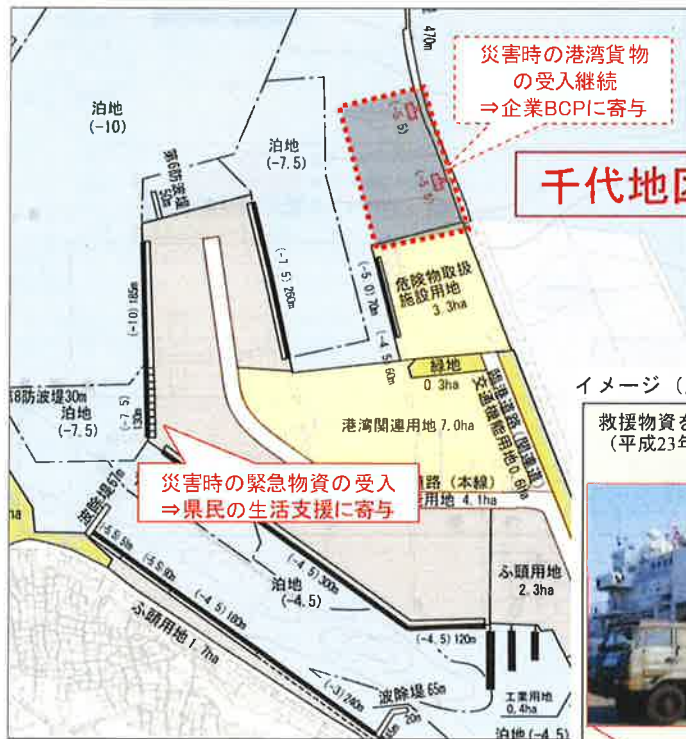
(取組みの例)

防災・減災対策を推進するため、港湾BCPによる減災及び早期復旧の推進を行います。また、南海トラフ地震等の大規模災害時に、鳥取港で物資を受入れ、鳥取自動車道等を陸上輸送するなど、境港や阪神港等の広域的なりだんだんシーの確保に取り組みます。

(一例)

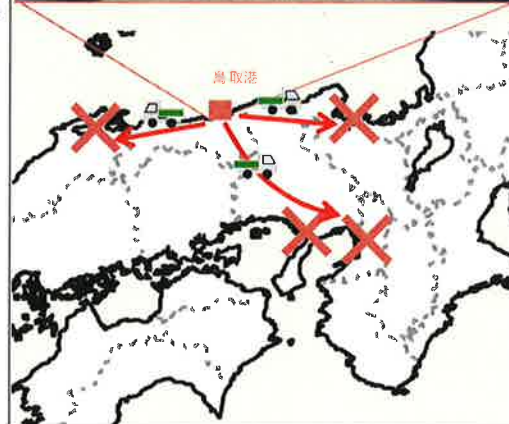
戦略	取組概要	具体的な取組例
りだんだんシー機能確保	阪神港被災時に港湾機能の一部を鳥取港へシフトできるように施設整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ストックヤードの確保 ・港湾機能整備（コンテナターミナル、内航航路誘致）
防災・減災対策の推進	事前の準備・対策により、非常時の円滑な対応を目指す。（早期復旧）	<ul style="list-style-type: none"> ・港湾BCP（策定済み）の周知・徹底 ・岸壁の耐震化（千代3号岸壁耐震化済み） ・津波避難施設の整備 ・災害対策（防災訓練の実施、備蓄品の準備等）

※下線は今後の取組の一例です。



イメージ（鳥取港から救援物資を被災地へ輸送）

救援物資を輸送し、自衛隊トラックに引き継ぐ巡視船（平成23年3月19日、宮城県仙台塩釜港）
資料：海上保安レポート2012



2) 安全・安心に関する背景及び今後の取組み内容に対する施策（まとめ）

背景	<ul style="list-style-type: none"> ○災害時に利用可能な岸壁確保への対応 ○広域的なりだんだんシーの確保への対応
----	---



戦略	取組概要	具体的な取組例	取組時期				対象地区
			既存	短期	中期	長期	
Concept1 自らの防災機能と他地域が被災した場合の補完機能の確保							
なりだんだん機能確保	阪神港被災時に港湾機能の一部を鳥取港へシフトできるように施設整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ストックヤードの確保 ・港湾機能整備（コンテナターミナル、内航航路誘致） 					千代地区
防災・減災対策の推進	事前の準備・対策により、非常時の円滑な対応を目指す。（早期復旧）	<ul style="list-style-type: none"> ・港湾BCP（策定済み）の周知・徹底 ・岸壁の耐震化（千代3号岸壁耐震化済み） ・津波避難施設の整備 ・災害対策（防災訓練の実施、備蓄品の準備等） 					全地区

※下線は今後の取組の一例です。

凡例

- ～ 5年 短期
- 5年～15年 中期
- 15年～30年 長期
- 継続的・持続的な取組



鳥取港の将来像（イメージ）
<p>●災害時に地域住民の生活・企業活動の継続を支援する港湾</p>

5-4. 施策のスケジュール

施策の短中長期的なスケジュールと対象地区を設定しました。

方向性 コンセプト	戦略	具体的な取組例	取組時期				対象地区
			既存	短期	中期	長期	
物流	Concept 1 海上物流拠点の機能確保	船舶航行の安定化 ・代替輸送航路の確保 (第3防波堤の撤去、緊急航路の浚渫)	等	■			千代地区 西浜地区
		港内静穏度の向上 ・防波堤の延伸、高上げ (第1防波堤、第2防波堤、第3防波堤)	等	■			全地区
		船舶大型化への対応航路の確保 ・主要航路を千代航路から西浜航路にシフト ・航路泊地の浚渫	等	■			千代地区 西浜地区
	Concept 2 輸送の効率化による地域産業の成長と競争力強化のための基盤整備	港湾機能の強化 ・船舶大型化に対する施設整備 ・コンテナターミナルの計画、取扱施設の整備 (航路誘致、荷役業者の確保、ボートセールス実施)	等		■		千代地区
		港湾へのアクセス道路強化 ・臨港交通機能の強化 (臨港道路の延伸整備) ・南北線との連携強化	等		■		千代地区
	Concept 3 将来を見据えた港の再編・維持管理	ふ頭用地確保 ・ふ頭用地の造成、再編 (港湾利用企業の誘致)	等		■		千代地区
ふ頭機能の強化 ・上屋の整備、改修 ・民間施設、水産施設整備に対する補助支援		等		■	■	全地区	
適正な施設管理 ・長寿命化計画による適正な維持管理		等		■	■	全地区	
人流	Concept 1 地域・自然と共生する交流拠点の形成	地域の歴史、文化活動の支援 ・白いか祭り：物販規制の緩和、水道等の施設開放 ・賀露自治会イベントで施設使用をする際の優遇	等	■			全地区
		自然との共生 ・ビーチクリーン活動 ・設備 (シャワー、水道) の増強	等	■			西浜地区
		交流拠点の再配置 ・緑地遊歩道の計画 (ルート、対象) ・ストリートスポーツ施設の配置計画 (コンクリート舗装)	等		■		賀露地区 千代地区
	Concept 2 周辺集客施設と調和する賑わい空間の形成	賑わい空間の拡大 ・周辺の大型集客施設とのイベント連携 ・賑わいゾーンの施設整備 (ボートパーク、マリニピア、西浜海水浴場周辺) ・集客施設の誘致 (飲食・商業施設等)	等		■		全地区
		海・空の港 (ツインポート) の連携推進 ・マリニピアでの空港イベント告知するデジタルサイネージ整備	等		■		賀露地区
		観光交流拠点形成 ・クルーズおもてなしの充実、支援 (市、自治会、小学校、商工会)	等		■		千代地区
		交通手段の充実 ・拠点間のアクセス充実 (ジオコムス、タクシー、レンタカー、バス、水上飛行機、シャトル、渡し船)	等		■		千代地区 賀露地区
	安全・安心	Concept 1 自らの防災機能と他地域が被災した場合の補完機能の確保	リダンダンシー機能確保 ・ストックヤードの確保 ・港湾機能整備 (コンテナターミナル、内航航路誘致)	等	■		
防災・減災対策の推進 ・港湾BCP (兼定済み) の周知・徹底 ・岸壁の耐震化 (千代3号岸壁耐震化済み)			等		■	■	全地区

※下線は今後の取組の一例です。
 ※取組の推進に当たっては、鳥取港賑わいづくり検討会にてとりまとめが行われている鳥取港賑わいづくり基本計画と連携を図ります。(人流)



5-5.空間利用計画

(1) 基本方針

鳥取港の将来像である、物流効率化の「輸送の効率化、多様性による地域産業を振興する港」、賑わい創出面の「地域資源を活用した賑わい・憩い空間の形成による交流拠点」、安全・安心面の「防災と安全性を備えた自然災害に強い港」の実現に向けて、地区の特性を踏まえ、調和の取れた空間利用が実現するよう4つのゾーニングを設定しました。

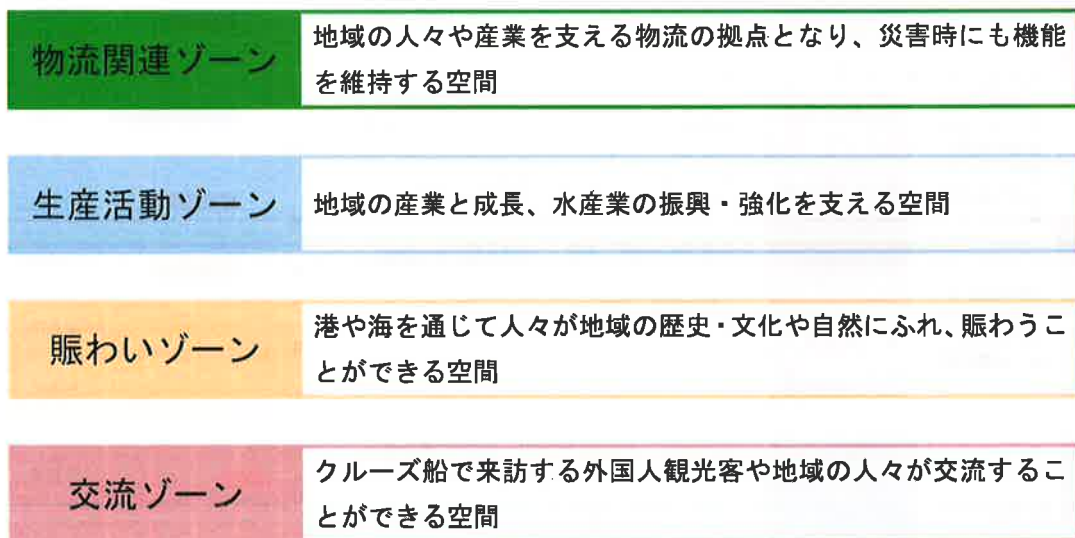


図 5-5 4つのゾーニングの設定

今後、これらのゾーニング結果を鳥取港港湾計画に反映させ、実現に向けて港湾関係者や関係行政機関等が連携して取り組んで参ります。

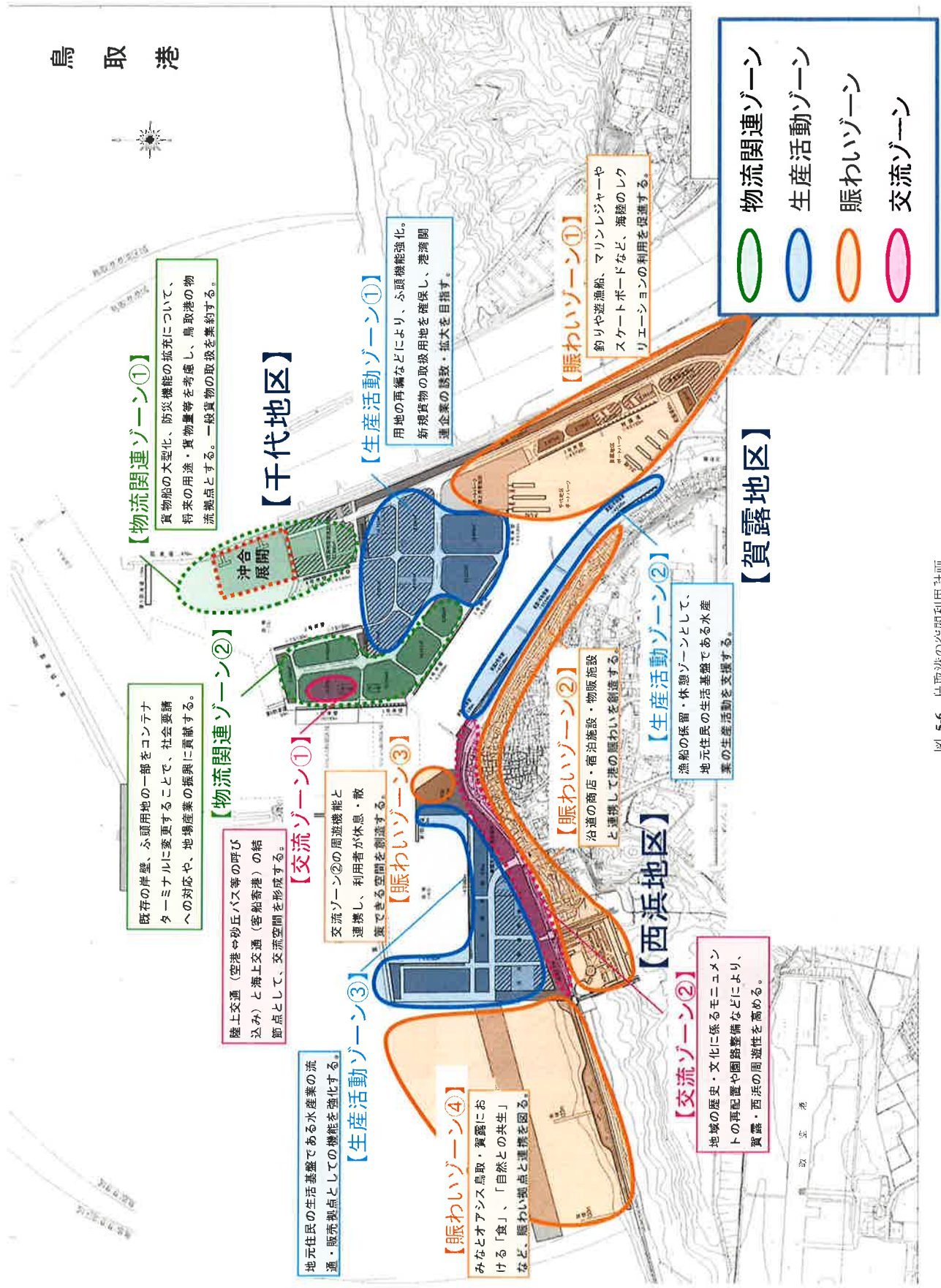


図 5-6 鳥取港の空間利用計画

(2) 地区別の空間利用計画

1) 千代地区

・【物流関連ゾーン】、【生産活動ゾーン】、【賑わいゾーン】、【交流ゾーン】を配置します。

【物流関連ゾーン】

- ① 貨物船の大型化、防災機能の拡充について、将来の用途・貨物量等を考慮し、鳥取港の物流拠点とします。また、一般貨物の取扱を集約します。
- ② 既存の岸壁、ふ頭用地の一部をコンテナターミナルに変更することで、社会要請への対応や、地場産業の振興に貢献します。

【生産活動ゾーン】

- ① 用地の再編などにより、ふ頭機能強化。新規貨物の取扱用地を確保し、港湾関連企業の誘致・拡大を目指します。

【賑わいゾーン】

- ① 釣りや遊漁船、マリンレジャーやスケートボードなど、海陸のレクリエーションの利用を促進します。

【交流ゾーン】

- ① 陸上交通（空港⇄砂丘バス等の呼び込み）と海上交通（客船寄港）の結節点として、交流空間を形成します。

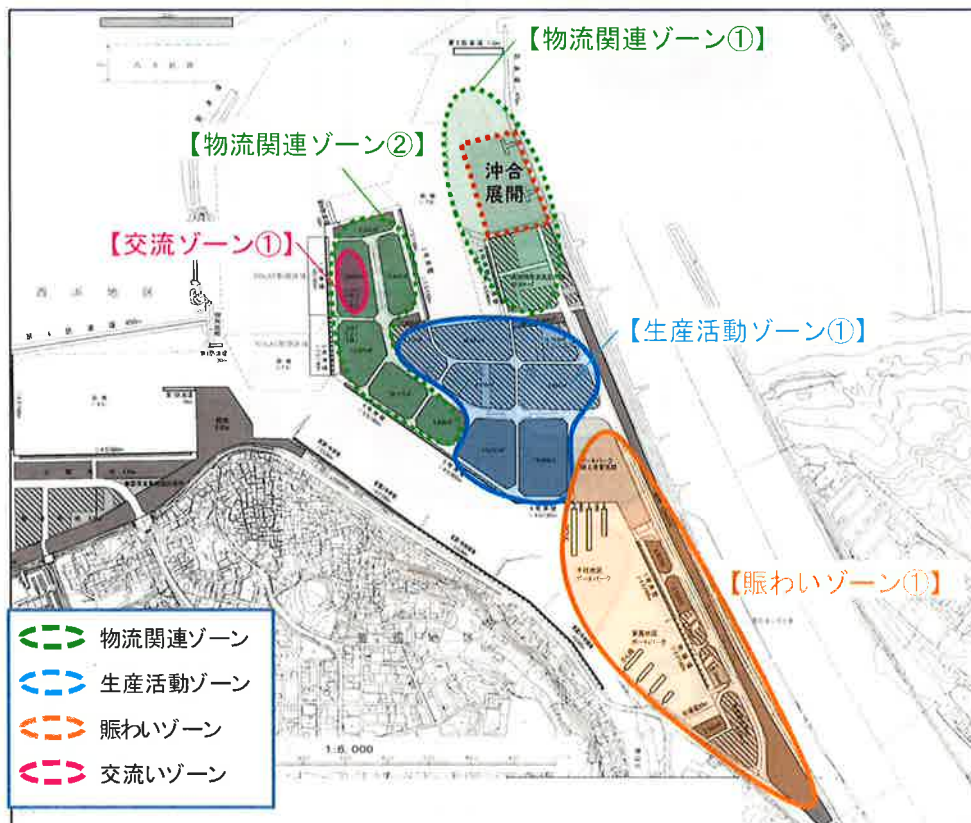


図 5-7 千代地区の空間利用計画

2) 賀露地区

- ・【生産活動ゾーン】、【賑わいゾーン】を配置します。

【生産活動ゾーン】

- ② 漁船の係留・休憩ゾーンとして、地元住民の生活基盤である水産業の生産活動を支援します。

【賑わいゾーン】

- ② 沿道の商店・宿泊施設・物販施設と連携して港の賑わいを創造します。

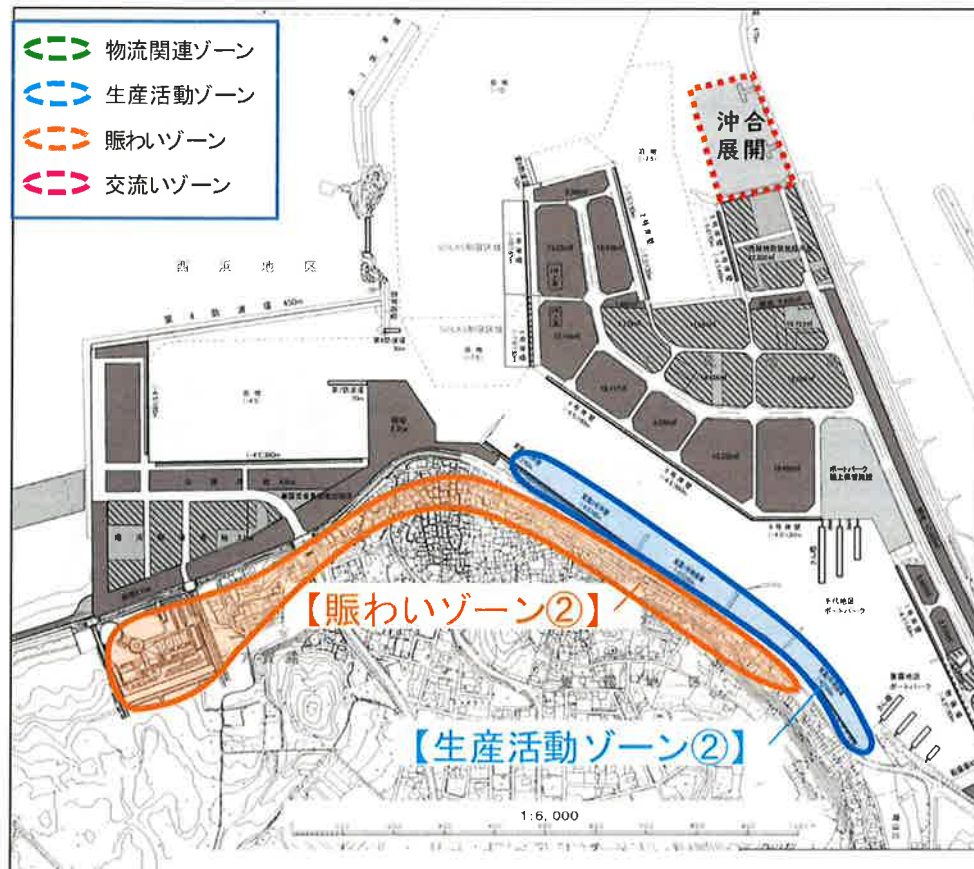


図 5-8 賀露地区の空間利用計画

3) 西浜地区

・【生産活動ゾーン】、【賑わいゾーン】、【交流ゾーン】を配置します。

【生産活動ゾーン】

③ 地元住民の生活基盤である水産業の流通・販売拠点としての機能を強化します。

【賑わいゾーン】

② 沿道の商店・宿泊施設・物販施設と連携して港の賑わいを創造します。

③ 交流ゾーン②の周遊機能と連携し、利用者が休息・散策できる空間を創造します。

④ みなとオアシス鳥取・賀露における「食」、「自然との共生」など、賑わい拠点と連携を図ります。

【交流ゾーン】

② 地域の歴史・文化に係るモニュメントの再配置や園路整備などにより、賀露・西浜の周遊性を高めます。

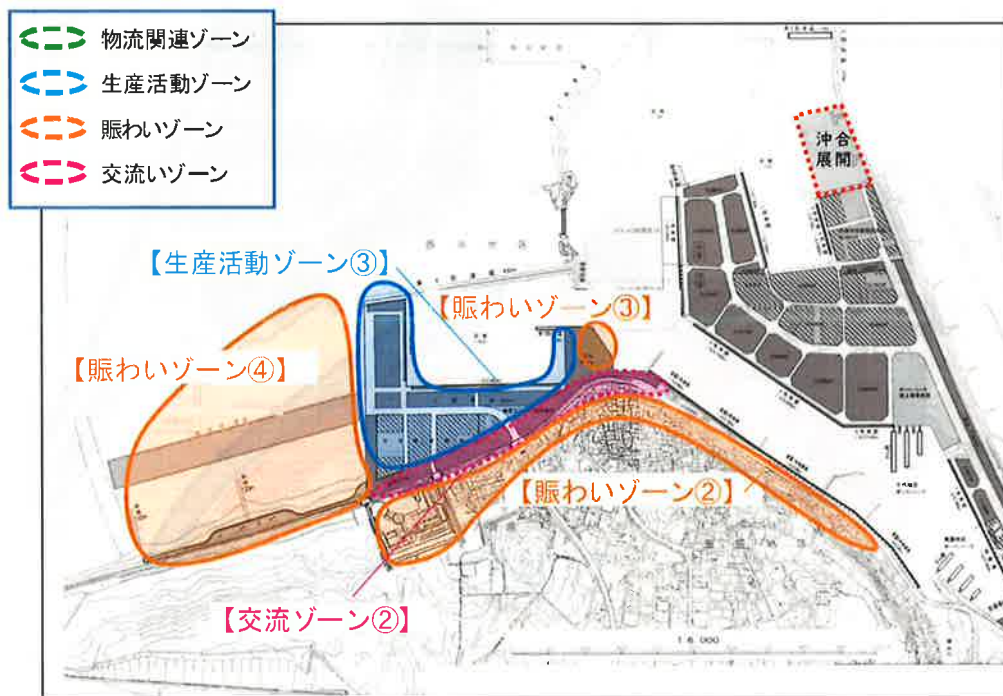


図 5-9 西浜地区の空間利用計画